



安産 良縁成就
恋愛成就

御深井観音



春姫様の嫁入りが名古屋の豪華な結婚式のルーツにだった

御深井（おふけ）観音は徳川家康公の九男、尾張徳川家の始祖である初代尾張藩主・徳川義直公の正室・春姫様の守護菩薩です。元は名古屋城の北御深井（おふけ）に祀られていたが、春姫様の菩提所である萬松寺に移されてきました。現在ある石像は昭和六十年に再現されたもので、本堂の北側に鎮座しております。また春姫様の結婚式は名古屋の豪華な結婚式

のルーツとなったとも言われていますが、毎年四月、市民団体が名古屋城本丸御殿再建を目指すため「春姫道中」として嫁入りを再現したイベントを名古屋城等で行っています。春姫様は観音様とともに恋愛成就、良縁成就、安産祈願に訪れる現代女性を見守り、良い縁へと導いて下さいます。



尾張藩祖 徳川義直公正室 夫人春姫

夫人春姫

春姫様は慶長八年（一六〇三）、紀伊太守浅野幸長の娘として和歌山に生まれました。幼い頃から古典の和歌、書に深く通じ才媛ぶりは有名だったと言われます。そして初代尾張藩主・徳川義直公に嫁いだのは十三歳の時でした。尾張に嫁いだ夫人春姫は戦国時代の世相の影響や不妊の苦しみから、涅槃像（お釈迦様の入滅する様子を仏像として

あらわしたものを）を拝みたいと望みますが、藩内のお寺を調べさせるもなかなか見つからなかったと言います。しかし、それを聞いた当時の萬松寺住職（八世／明谷師）が寺に伝わる涅槃像を夫人に送ったところ、夫人はその苦しみから解放され、この事から夫人春姫は萬松寺に帰依し檀家になったと伝わります。夫人は寛永一四年四月二二日、現在の東京で病死。ご遺体は菩提寺である萬松寺に迎えられ火葬が営まれました。遺骨は当時、寺の西北に靈廟が建てられ納められました。現在は名古屋東照宮に移されています。



万松寺駐車場 万松寺パーキング 料金改定のお知らせ

2014年4月からの消費税引き上げ（5%↓8%）および電気料金の値上げに伴い、月額料金（改定後）全日3,000円/屋上1,800円/平日1,500円/土日祝1,100円/土日祝1,500円）の値上げをお願いしました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機でクレジットカードが使用できます!

カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽Edy タッチするだけで簡単精算! 電子マネー「楽Edy」も使えます!

★24時間最大（平日：1,100円 土日祝：1,500円）※2004年4/1より改定しました。

●昼間（8:00～20:00）100円/15分 【お問合せ】 052-251-4543

●夜間（20:00～8:00）50円/30分

■旧券の交換は管理事務所（万松寺ビル北館1階）または万松寺境内の受処へ。（9時～18時）

ご祈禱・供養は **萬松寺**

◆十一面観世音菩薩：先祖供養、水子供養
◆身代り不動明王：厄除け、無病息災、身体健全 病氣平癒、災難消除
◆白雪稲荷：商売繁盛、家内安全

各種ご祈禱を受け付けております。ご祈禱の受付は午前10時～4時半まで。

毎月28日はお不動さんの縁日
午後六時～、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。お問合せ TEL 052-262-0735

からくり人形『信長』は午前10時～2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

亀嶽林 萬松寺

なるほど仏教

てんじょうてんげ

ゆいがどくそん

天上天下唯我独尊

お釈迦様の誕生と花まつり

お釈迦様は、今からおよそ2500年前、現在のインド国境に近いネパールの地、ルンビニーの花園でお生まれになりました。お釈迦様の誕生日のお祝いを「花まつり」というのはこのためです。伝説では、お生まれになつてすぐに七歩進み、右手で天を、左手で地を指差し「天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)」と宣言されたといわれています。この言葉は「人は誰もが、かけがえない命を生きている」という、仏教のもつ人間尊重の精神を端的にあらわしています。またこの時に、お釈迦様の誕生を祝った竜王が甘露の雨を降らせたとも伝えられています。



「花まつり」は、曹洞宗寺院だけでなく、多くの仏教寺院や仏教系の幼稚園、学校などで広く行われています。お釈迦様が生まれたルンビニー園の誕生の様子を表した「花御堂(はなみどう)」を飾り、その中央には天地を指差した誕生のお姿を安置し、甘露の雨を模した甘茶をかけ、華やかにお祝いされます。「人は誰もが、かけがえない命を生きている」と思いを巡らせれば、私達は皆、お釈迦様と同じように、誰にもかわることの

出来ない、かけがえない「いのち」を生きている事に気づくことでしよう。人類が誕生して以来、数え切れないほどの人びとが生き、また現在、数十億の人びとが共に存在しているなかで、誰一人として「わたし」と同じように生き、悩み、考え、行動する人はいないのです。4月8日は、お釈迦様の誕生をお祝いすると同時に、それぞれの「かけがえない命の尊さ」に眼を向け、正しく生きることをお誓いする日にしたいものです。

萬松寺録

織田信秀公命日に有楽流家元による献茶

去る三月三日、戦国大名・

織田信長の父である信秀の命日に、菩提寺である当寺にて、今年も追善法要が執り行われました。そして信秀が亡くなったから四六二年にあたる今年には、信長が好んで舞つたと言われる幸若舞保存会による舞の披露だけではなく、信秀十一男、有楽斎の教えを受け継ぐ茶道有楽流家元が、自らお茶を点て信秀公の二位牌に「献茶」をし霊を慰めました。「献茶」は織田家子孫である十七代目家元・織田宗裕(そうゆう)さんのお申し出によって、今年初めて行われました。貴重な機会に多くの報道陣に囲まれる中、家元によって本堂の一角

開基

織田信秀公



織田氏は尾張の国の守護代の家柄であったが、信秀はその一族とはいえ、守護代ではなく織田家の支流の支流というべき立場であった。しかし、才智勇にたけた信秀公は、時代の傾向を先取り、実力で尾張の織田を統一したと言われる。当山に現存する木像から見ると、体形はややふくよか。精悍(せいかん)な顔立ちながらも、温容さを兼ね備えた好男子であったようだ。天文21(1552)年3月3日、急な病により他界。

信秀十一男

織田有楽斎(長益)



でゆつたりとした手つきで点てられたお茶は、信秀公位牌の前に粛々とお供えされました。献茶が終わると「先祖への供養にお茶を差し上げたかった。」と家元。そして有楽斎からの献茶、信長からの幸若舞と二人の息子からの慰霊に「勝手な想像ではありますが、信秀も感無量だと思います。」と任職。戦国武将のゆかりの地名古屋らしい法要になりました。



今年の信秀忌の模様。信秀公供養の為に有楽流家元と献茶の様子。



織田有楽斎(長益)は織田信秀の十一男、信長の実弟。また「有楽流」は有楽斎が創始した茶道の流派。有楽斎(うらくさい一五四七〜一六二二)は、茶の湯の創成期に尾張が生んだ大茶匠であり、剃髪後は有楽斎如庵と号した。現在、愛知県犬山市に移築されている、有楽斎が造った茶室如庵(じょあん)は国宝にも指定されている。また「有楽」の名は茶の世界のみならず、東京数寄屋橋に近い地名にも残され多くの人に親しまれている。過酷な戦国の世を生きたきながら、平穏な晩年を過ごした有楽は幸運であった。貴公子風の人物と豊かな文化的教養や芸術的天分に恵まれ、その生涯は風流の心に貫かれている。